

コイノニア・ニュース NO.3

2005年9月

9月13日より今年の第3学期が始まり、子供達がみな元気に戻ってきました。先生達も今年最後のまとめの学期を意欲を持って取り組んでいます。

各学期の最後の日には、毎回ペアレンツ・デーと称して、親を招き子供達が発表の機会を持ちます。また、その後はバエ牧師の話し、担任との懇談を行います。7月のペアレンツ・デーも保護者の参加は非常によく、一人の子供が保護者の参加がなかっただけでした。

親達は直接学校での子供達の成長を見、先生達と話し合い、教育への関心を高めています。担任との懇談の後、コイノニアのために集められた古着のセールをしました。キューナ幼稚園の父母から贈られた古着を、無料で配るのではなく、安い金額で売り、その収益を8月のホリデースクールの運営資金にしました。

前学期の最大イベントはユニフォームです。2003年入学の第一号グループが1年生になりました。ケニアでは小学校へ入るとみな制服を着ます。コイノニアも制服を作りました。5月に9人の1年生達に2着ずつ贈呈されました。イギリスのクリスマスチャンの女性からいただいた献金をこの制服に当てました。これでキバガレスラムを歩いていても、彼らがコイノニアの生徒であることが一目瞭然です。



クラス・レポート

ボンゴ・クラス(小学1年) 9名

主要科目、英語、算数、理科はイギリスのカリキュラムを適応し、スワヒリ語、社会、生活などの学科はケニアのカリキュラムを用いるという、ユニークなクラスです。

子供達はそれぞれの教科を楽しみつつ力をつけてきました。担任のムラグリ先生は子供達から質問が出ると、まず百科辞典を広げて自分で答えを見つける事をすすめてきました。子供達はそれぞれが自分の興味のある分野に関する知識を増やしています。

エランド・クラス(5 - 6歳児) 13名

英語の基礎を学び、読み書きへの基礎学力をつけることに重点を置いてきました。クラスの中で友達のことを考えること、また、嘘をつかないで正直に話すことが大きな課題でした。頭ではわかっていても自己防衛のために反射的に嘘をつく習慣を変えることは先生達にとって忍耐のいる仕事です。クラスの中にはみんなについていくのが難しい子供たちが数人いますが、キゴエ先生はその子供達にも丁寧に関わっています。ボランティアで、特別な指導の必要な子供を見てくださる先生も与えられました。

インバラ・クラス(4 - 5歳児) 15名

1月に入学してきた子供達です。1学期は、まだ幼稚園で起こっていることが理解できず、英語もわからなかった子供達が、2学期は園生活の基本的なことは英語で理解できるようになって来ました。また子供達がリラックスしてそれぞれの個性を見ることができました。また、先生や友達との関わりがうまくできない子供達もいますが、すべてのことに熱心で意欲的です。

課外プログラム



陶芸クラス—5月から始まりました。ケニア人のポール先生が教えています。真剣な目で先生の手を見ながら、自分達も土を触り、ペン立てや、小さい器を作りました。

空手 黒帯を持つジョシュア先生が、日本語で「イチ、二、サン」と掛け声をかけながら皆で型を習っています。「レイ」とお辞儀をして練習を始める姿はみな真剣です。

新しい音楽教育 コイノニアの夢は子供達が楽器を演奏できるようになることです。

ピアニカ：9月からはボンゴクラスの子供達は、ピアニカを習っています。日本の三重県亀山市の有志が、家庭に眠っているピアニカを40台集め消毒し、わざわざケニアまで届けてくださいました。コイノニアの子供達が音楽の基礎を身につけ楽譜を読むことができるよう指導したいという私達の願いを聞いてくださいました。ピアニカをマスターしたら次はリコーダーです。これも日本から青山学院高等部の先生方と卒業生達が、また東洋英和女学院付属かえで幼稚園の先生方が届けてくださいました。将来は子供達がいろいろな楽器を演奏することができたらと夢は広がっています。



クリスマスに向けて

今学期の最後はクリスマスコンサートと、卒業式です。

卒業式はインパラクラスの子供達が幼稚園を終えて小学校へ上がる儀式です。

コンサートは、音楽のジョイ先生と相馬先生が協力して、「ホサナ・ロック」というクリスマスミュージカルをやる事になりました。

コイノニアでは狭いので、キューナ幼稚園の舞台とテントを使ってコンサートを催す予定です。

子供達は大張り切りです。子供達が頑張るので先生達も頑張って衣装を用意する予定です。

日本からの御客様

8月、9月には日本からお客様がコイノニアを訪れてくださり、子供達とたのしい交わりの時を持ってくださいました。コイノニアへの理解者と応援者が増えた事が最大の喜びです。

キバガレスラムの変化

子供達が住んでいるキバガレスラムで8月に大きな事件がありました。

スラムの一部の家がナイロビ市によって取り壊され、数十人が一時的にホームレスになったのです。このスラムはもともと道路建設予定地や個人の土地に不法に住居を建てて住み着いた人たちの集まりです。しかし、長い間に、チーフと呼ばれるこの地を監督する人が不法に土地を売り、すでに多額のお金を払って自分の土地だと信じて暮らしている人たちもいます。

あるNGOが孤児院を建てるためにキバガレの一部を買い、ナイロビ市に不法居住者の強制立ち退きを要請しました。キバガレの住人達は2日前に予告を受け、引っ越すゆとりも、引越し先も見つけれないまま、ある土曜日の早朝を迎えました、大型トラックに大量の人を乗せて、強制立ち退きの人々はやってきました。

ちょうどコイノニアの谷を隔てて反対側でした。

20件ほどの家を取り壊して、住民の抵抗もあり、この立ち退き作業は中途半端になったままです。人々はいつまたこのような事が起こるのかを、日々心配しながら生活しています。